

■ チョウジソウ

Amsonia elliptica

(平成 22 年 9 月 24 日指定)

徳島県における指定状況：絶滅危惧Ⅰ類
環境省における指定状況：準絶滅危惧 (NT)
その他の指定：なし



種の概要

1) 特徴

草丈が 40～60cm の多年草で、地下茎は横に這い。茎は丸く、直立して上の方で枝分かれする。葉は互生し、披針形で両端は尖り、縁は全縁である。5～6月頃、茎の頂に濃紫色の花を集散状に開く。がくは深く5つに裂け、裂片は尖っている。花冠の下部は筒状になり、筒内の上部には毛が多く、さらにその上部は5つに裂け、裂片は長楕円形で、花時には平開する。雄しべは5本で、花筒の上端につき、花柱は細く、柱頭は輪状となる。果実はふたまたに分かれた細長いさや状の袋果で、長さは5～6cmである。種子は円柱形で長さは2mm程度、細かいしわがあり茶褐色をしている。他のきょうちくとう科植物と同様に全草にアルカロイドを含む有毒植物である。

2) 繁殖生態

種子繁殖と地下茎による栄養繁殖をする。

3) 分布

東アジア（日本、朝鮮半島、中国）に分布している。日本では北海道から宮崎県にかけて分布していて、2000年版環境庁レッドデータブックでは、100年後の絶滅確率が約97%と推計され、絶滅危惧Ⅱ類 (VU) に指定されていた。その生育状況は次のとおりである（環境庁版 RDB2000）。

① 現存しているところ

以下に記したのが国内の現存地であるが、四国では本県が唯一の現存地となっていて、海陽町の2箇所にも生育している（図3）。

北海道、青森県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、栃木県、埼玉県、新潟県、石川県、福井県、静岡県、兵庫県、和歌山県、岡山県、山口県、徳島県、福岡県、大分県、宮崎県。

② 現状不明のところ

岩手県、茨城県、千葉県、神奈川県、岐阜県、三重県、滋賀県、大阪府、奈良県、島根県、広島県。

③ 絶滅したところ

群馬県、東京都、富山県。

その後、2007年8月に新しく公表された環境省版レッドリストでは、準絶滅危惧 (NT) に評価が変更された。

生育地と生育状況

生育地：徳島県海陽町

低地の川岸の氾濫源や原野などの湿った草地に生える。県内ではスギ植林地の林縁の湿地に群生地があり、もう1箇所はスギ植林地の林内にある低湿地に数十個体が生育している。

絶滅の要因

(1) 過剰な捕獲・採取 (評価得点：4)

過去には、マニアばかりでなく、一般の人にも採取されている情報があった。

(2) 生息・生育地の質的劣化

いずれの群生地も適度な攪乱が無ければ、植生の遷移による衰退の可能性が考えられる。また、スギ植林地の生育地は、スギの成長に伴い、日照不足などの環境劣化による衰退が認められる。

(3) 里山等の管理放棄

以前は地権者や管理者などによる生育地の用水路などの維持管理がされていたと考えられるが現在はほとんどされていない。管理放棄により生育環境は悪化している。

(4) 在来種による圧迫

吉田の生育地はカサスゲの繁茂と林縁のアオキなどの低木の繁茂により、圧迫を受けている。

富田の生育地はハナミョウガやキミズなどが繁茂し、その影響を受けている。

保全対策

(1) 保護管理

現在の自生地の現状と個体数の把握に努め、圧迫を与えている在来種ノカサスゲやアオキを除去するとともに、盗掘防止の保護柵を設置するなど、生育環境の維持と管理に努めるべきである。また、生育環境の劣化が認められるスギ植林地は、日当たりを良くするためにスギの間伐を行うなど、環境の改善を図る必要がある。

地域・ボランティア団体等との連携

花が美しく鑑賞価値が高いため、無断で採取される可能性がある。それを防止するため、地権者や管理者の了解のもとに、保護団体、NPO、地域のボランティアなどと連携して保護・管理を推進することが重要である。

場所によっては解説や採取禁止の看板を設置し、盗採取防止や生育環境の保全に努めることが望ましい。

(木下 覺)